

平成21年度第3回SPODネットワークコア運営協議会（SD） 議事次第

日 時:平成21年6月23日(火)14:00～17:00

場 所:愛媛大学 城北キャンパス

社会連携推進機構 産業科学技術支援センター 2階研修室

議 題:

(FD・SD共通)

1. SPODが実施する研修等に係る受講証及び修了証書の取扱について 【資料1】
2. SPOD研修アンケートについて 【資料2】
3. SPODメールマガジン(仮称)の試行配信について 【資料3】

(SD分科会)

4. SDにおける協働スケジュールについて 【資料4】
5. SPOD（SD）に関するQ&Aについて
 - SPOD（SD）に関するQ&Aについて 【資料5-1】
 - SPOD-SDプログラムの導入効果について 【資料5-2】
 - SPOD-SDプログラムが想定する職員のキャリアパス・イメージ 【資料5-3】
 - SPOD-SD大学（SDプログラム）構想図 【資料5-4】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）が実施する 研修等に係る受講証明書及び修了証書の取扱いについて（案）

平成21年〇月〇日

ネットワークコア運営協議会決定

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）が実施する研修等において受講証明書及び修了証書を授与する場合の取扱いについて、以下のとおり定める。

1 授与の対象

原則として、SPODの研修プログラムガイドブックに記載された研修を授与の対象とする。

2 授与の名義者

主催大学における研修事業の責任者名義で作成し、授与を行うこと。

3 受講証明書及び修了証書の様式

用紙の大きさ、飾り枠の有無等については、特に指定しない。

4 受講証明書及び修了証書の内容

SPODの研修事業であること及び主催大学名を明示すること。

（例）

あなたは平成21年度四国地区大学教職員能力開発ネットワーク 愛媛大学主催FDスキルアップ研修「わかりやすいシラバスの書き方」を修了されたことをここに証します

修了証書 (例)

〇〇大学

〇〇 〇〇 殿

あなたは四国地区大学教職員能力開発ネットワーク〇〇大学主催 〇〇〇
〇〇研修「
」
を修了されたことをここに証します

※ この後、適宜コメント等を付してもよい。

(例) 今後の大学等の教員としての歩みの中でこの研修の成果が生か
されることを期待します。

平成21年〇月〇日

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

愛媛大学教育・学生支援機構長

弓 削 俊 洋

受講証明書 (例)

〇〇大学

〇〇 〇〇 殿

あなたは四国地区大学教職員能力開発ネットワーク〇〇大学主催 〇〇〇
〇〇セミナー「
」
を受講されたことをここに証します

※ この後、適宜コメント等を付してもよい。

(例) 今後の大学等の教員としての歩みの中でこの研修の成果が生か
されることを期待します。

平成21年〇月〇日

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

愛媛大学教育・学生支援機構長

弓 削 俊 洋

参加者及び授与者名簿 様式(案)

研修期間	主催大学名	研 修 名	受講証明書又は 修了証書授与日

番号	県 名	機関名	所属学部等名	職 名	氏 名	備 考
1	(例) ○○県	○○大学	大学院○○研究科	教授	四国 太郎	(修了証書等を授与していない 場合は、理由も含めその旨記載)
2	(例) △△県	△△大学	総務部△△課	△△係長	連携 花子	
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

注)

1. SPOD事業の一環として行った研修等の状況について、必ず記録すること。
2. SPOD全体の授与状況を集計するため、各大学の事務連絡担当者は、学内実施分をとりまとめ、毎年3月にSPOD事務局に提出すること。

SPOD 研修アンケートについて（案）

1. アンケートの目的について

研修内容の改善のため、参加者から意見をいただき、プログラム等に反映させる。

2. アンケートの様式について（別紙のとおり）

全体集計及び比較検討を可能にするため、共通項目を設定する。

但し、SPODフォーラムについては、参加者の記入の負担等を考慮し、項目数を絞るなどの方策を別途検討。

3. アンケート実施の手順

- （1）各主催校において、アンケートを作成。
- （2）プログラム終了後、参加者にアンケートの記載を依頼したのち、回収。
- （3）各主催校において、アンケートのデータを集計。SPOD事務局にもデータを送付。
- （4）主催校は自校でデータを分析し、活用。
- （5）SPOD事務局において、他の研修分と合わせ、データを分析。

結果について、コア協議会へ報告。

SPOD 研修アンケート様式 (案)

研修内容の改善のために、率直なご意見をお聞かせください。
設問毎にあてはまる番号に○を付して回答してください。

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

- ① 4年制大学 ② 短期大学 ③ 高等専門学校 ④ その他 ()

(2) 所属先の設置者

- ① 国 (国立大学法人) ② 地方自治体 (公立大学法人を含む)
③ 学校法人 ④ その他 ()

(3) 職種

- ① 教員 ② 職員 ③ 学生 ④ その他 ()

(4) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

※ これより先の設問における回答番号の説明は以下のとおりです。

4 そう思う 3 どちらかといえばそう思う 2 どちらかといえばそう思わない 1 そう思わない

2. 研修参加への経緯について

設 問		回 答			
1	研修目的や内容についてある程度知った上で参加した	4	3	2	1

※ 必要に応じ、下記の設問を追加。

	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	4	3	2	1
	研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	4	3	2	1
	上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている	4	3	2	1
	※ さらに必要な項目があれば追加	4	3	2	1

3. 研修プログラムの設計について

1	研修の目的は明確に設定されていた	4	3	2	1
2	研修は自分の業務に生かせる内容だった	4	3	2	1
3	研修はわかりやすい順序ですすめられた	4	3	2	1
4	研修会場は快適な環境だった	4	3	2	1

※ 必要に応じ、下記の設問を追加。

	研修内容は丁度良いレベルに設定されていた	4	3	2	1
	研修時間は研修目的を達成するために丁度よい長さだった	4	3	2	1
	研修の実施時期は適当だった	4	3	2	1
	研修会場には十分な設備が整っていた	4	3	2	1
	参加者の人数は適当だった	4	3	2	1
	※ さらに必要な項目があれば追加	4	3	2	1

裏面にも設問があります。

(回答番号の説明)

4 そう思う 3 どちらかといえばそう思う 2 どちらかといえばそう思わない 1 そう思わない

4. 研修スタッフについて

設 問		回 答			
1	講師の言動は学習意欲を高めた	4	3	2	1
2	事務局は手際よく研修を運営していた	4	3	2	1

※ 必要に応じ、下記の設問を追加。

	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	4	3	2	1
	講師の用意した教材はわかりやすかった	4	3	2	1
	事務局の対応は丁寧だった	4	3	2	1
	※ さらに必要な項目があれば追加	4	3	2	1

5. 研修成果について

1	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	4	3	2	1
2	受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う	4	3	2	1

※ 必要に応じ、下記の設問を追加。

	研修の内容は十分に理解できた	4	3	2	1
	新たに人的なつながりをつくることができた	4	3	2	1
	※ さらに必要な項目があれば追加	4	3	2	1

受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

()

6. 研修全体について

1	研修は全体的に満足できるものだった	4	3	2	1
---	-------------------	---	---	---	---

※ 必要に応じ、下記の設問を追加。

	研修は期待を上回る内容だった	4	3	2	1
	今後もこの研修を継続していくべきだと思う	4	3	2	1
	※ さらに必要な項目があれば追加	4	3	2	1

研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

()

御協力ありがとうございました。

SPODメールマガジン（仮称）の試行配信について（案）

1 趣 旨

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）加盟校におけるFD／SD事業に資するよう、SPODで開催するイベント情報等のほか、加盟校の教育改善に係る取組みやニュースサイトに取り上げられた記事情報について掲載したメールマガジンを配信する。これらの情報提供を行うことで、加盟校間の連携及び本ネットワーク事業の活性化を図る。

2 内 容

本メールマガジンについては、主に以下①～③の内容を掲載する。

① SPODで開催する各種イベントに係る情報等

- ・申込〆切日の接近した研修プログラムのお知らせ
- ・申込が定員上限に達した研修プログラムのお知らせ
- ・遠隔システムにより配信を予定している研修プログラムのお知らせ

② 加盟校の教育改善に係る取組み

- ・加盟校からの情報提供による教育、学生支援関係の取組事例紹介

③ その他加盟校、高等教育に係る情報等

- ・新聞社のweb ページ等ニュースサイトに掲載された加盟校及び高等教育関連情報
(ニュースクリップ形式で、タイトル見出し及びリンク先アドレスのみ貼付)

④ その他FD／SDに関する情報

3 配信方法

現在開設されているSPODメーリングリストを活用し、FD／SD担当者及び事務連絡担当者を通じ、各加盟校の教職員に対して広く配信する。

(今後、SPODホームページ上からの登録申込受付についても検討)

4 配信時期

月2回程度（但し、臨時配信を行う場合がある）

5 編集及び配信者

本メールマガジンの編集及び配信は、愛媛大学教育企画課が担当する。

★SPODメールマガジン（仮称）（創刊準備号 2009/06/28）★

こんにちは、SPOD事務局です。

7月から、SPOD加盟校向けにFD/SDに役立つ各種情報をメールマガジンでお送りすることになりました。これから、月2回程度事務連絡担当者に配信いたしますので、適宜学内への転送等をお願いします。

■ 内容について

このメールマガジンでは、主に以下の3つの情報をお知らせしていきます。

- ① SPODで開催する各種イベントに係る情報等
(詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>)
 - ・ 申込〆切日の接近した研修プログラムのお知らせ
 - ・ 申込が定員上限に達した研修プログラムのお知らせ
 - ・ 遠隔システムにより配信を予定している研修プログラムのお知らせ
- ② 加盟校の教育改善に係る取り組み
 - ・ 加盟校からの情報提供による教育改善の事例紹介
(他大学等にPRしたい情報等があればお知らせください)
- ③ その他加盟校、高等教育に係る情報等
 - ・ 新聞社のwebページ等に掲載された加盟校、高等教育関連情報

このほか、メールマガジンで提供を希望する等があればぜひお知らせください。

■ その他 メールマガジンやニュースサイト等について

このメールマガジンのほか、国をはじめとする様々な機関において、メールマガジン等が配信されています。ご参考までに、以下を挙げさせていただきますので、各人で登録をいただくなど、適宜ご活用ください。

(このほか、役立ちそうなメールマガジン、webサイトがあれば下記までお知らせください)。

【メールマガジン】

- 高等教育政策情報（文部科学省）
- GPナビ（文部科学省）
<http://www.mext.go.jp/magazine/>
- 国立大 F&Mマガジン（(独) 国立大学財務・経営センター）
<http://www.zam.go.jp/q00/q0000000.htm>

【ニュースサイト等】

- 大学プレスセンター（大学通信）
<http://www.u-presscenter.jp/>
- 大学プロデューサーズ・ノート（早稲田塾）
<http://www.wasedajuku.com/wasemaga/unipro-note/>
- 大学職員.net blog
<http://blog.university-staff.net/>
- 大学サラリーマン日記
<http://d.hatena.ne.jp/asitano1po/>

=====

編集・発行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事務局
愛媛大学教育企画課／089-927-9154／spod@stu.ehime-u.ac.jp
Web サイト：<http://www.spod.ehime-u.ac.jp/>

SDにおける協働スケジュール(案)

SDプログラム(階層別, 専門分野別)の開発, 実施		主開発校	協働開発校	年度			
				20	21	22	23以降
経営者, 管理者養成プログラム	●経営者, 管理者としての基礎能力養成共通研修科目	香川大学	コア校・加盟校	—	開発	実施	
	●組織としての意思決定						
	●組織戦略の企画立案						
	●予算策定						
	●危機管理						
	●部下統率						
次世代リーダー養成プログラム	●次世代リーダー職員を対象としたコースを開発するための共通研修科目 大学の将来を背負って立つ有能な若手職員を選抜し, 問題意識の持ち方, 課題の立て方から始まり, 新時代の大学戦略を立案する。	高知大学	コア校・加盟校	—	開発 実施	実施	
基礎力養成プログラム	●大学人・社会人としての基礎力を養成するための共通研修科目(レベル1)	愛媛大学	コア校・加盟校	開発	開発 実施	開発 実施	
職員業績記録(スタッフ・ポートフォリオ)		愛媛大学	コア校・加盟校	—	開発	開発	
職員キャリアアップサポート		—	—	検討	実施	実施	
専門職養成プログラム	●学務系職員養成 ・基礎能力養成共通研修科目 (レベル2) ・教務事務担当 基礎・応用(レベル3) 指導・教授(レベル4) ・入試事務担当 基礎・応用(レベル3) 指導・教授(レベル4) ・学生支援担当 基礎・応用(レベル3) 指導・教授(レベル4) ・就職支援担当 基礎・応用(レベル3) 指導・教授(レベル4)	徳島大学	コア校・加盟校	—	開発 実施	開発 実施	

今後開発予定のプログラム(案)

SDプログラム(階層別, 専門分野別)の開発, 実施	主開発校	協働開発校	年度			
			20	21	22	23以降
専門職養成プログラム	●研究協力系職員養成 ・基礎能力養成共通研修科目 ・外部資金担当 ・知的財産担当 ・産官学連携担当	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	
	●総務系職員養成 ・基礎能力養成共通研修科目 ・経営情報分析担当 ・広報・渉外折衝担当 ・危機管理担当 ・人事政策担当 ・給与・福利担当 ・労務管理担当	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	
	●財務系職員養成 ・基礎能力養成共通研修科目 ・予算・決算担当 ・資産管理担当 ・経理調達担当 ・資金管理・運用担当 ・監査・内部統制担当	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	
	●施設系職員養成 ・基礎能力養成共通研修科目 ・施設マネージメント担当 ・建築担当 ・電気設備担当 ・機械設備担当 ・環境保全担当	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	
	●図書系職員養成 ・基礎能力養成共通研修科目 ・閲覧担当 ・参考調査担当 ・相互協力担当 ・利用者教育担当 ・蔵書構築(資料整備)担当 ・情報・システム担当	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	
	●国際交流系職員養成 ・ ・ ・ ・	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	
	●情報処理系職員養成 ・ ・ ・ ・	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	
	●医事系職員養成 ・ ・ ・ ・	コア校・加盟校	—	—	開発 実施	

SPOD(SD)に関するQ&A

1 開発中のSDプログラムについて

(1) 各大学が分担してプログラムを開発していますが、完成したらどのような形になっているのですか。

→A；四国の国公立大学・短大・高専の職員が職務能力を高めるためにどの研修を受講すれば良いかが分かります。また、研修を実施する場合は、どの大学の、どの講師に依頼すれば良いかが分かります。

さらに、各大学等で開催する研修を相互に受講することができますので、職員は幅広く研修を選ぶことが可能となります。

(2) 各大学で5つのプログラムを開発することとなっていますが、その相関関係がよく分かりません。

プログラム開発は5つで終わりなのですか。

→A；これだけでなく、専門職養成プログラムは21年度は先行的に「学務系職員養成プログラム」を完成させるものです。その後は研究協力系、総務系、財務系、施設系、図書系、国際交流系等のプログラムを各県のコア校が中心となり、コア校・加盟校で開発することとなります。大学人、社会人としての基礎力養成プログラムは、大学のカリキュラムに例えると共通教育部分であり、大学職員にとって必要な能力開発を行うプログラムです。学務系職員養成プログラムは専門教育部分であり、その他に研究協力系、総務系、財務系、施設系、図書系、国際交流系等のプログラムが考えられます。さらに、経営者、管理者養成プログラムは、この2つの基礎力を備え、かつ、企画力、経営力などの大学マネジメントに必要な能力を備えるためのものであり、いわば大学院部分です。トップマネジメントができる職員となることを目指すものです。

(3) このプログラム開発において、現在、何が決まっていて、何が決まっていないのですか。

→A；5つのプログラム開発担当校は決まっています。愛媛大学が担当の「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム」のSDマップは、現在、完成に向け検討しており、9月開催のFD/SDフォーラムまでには公表し、さらに検討する予定です。

学務系以外の専門職養成プログラムの開発はどの大学で開発するか検討中です。

(4) この手法は、誰が開発したのですか。資料があれば勉強したいのですが。

→A；一般的なプログラム開発・ワークショップの手法です。(合宿セミナーの際に配布した資料「技術・技能伝承ハンドブック」のとおりです。)

2 個々のプログラム開発について

(1) 愛媛大学が先行して開発した「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム」が示されていますが、このプログラムとしては、これで完成ですか。完成でないとすれば、どのような形で完成となるのですか。

→A；上述のとおり現在検討中です。

現在示しているものに、SPOD内で担当可能な講師紹介と、講師がいない場合はSPOD外のどの講師に依頼すれば良いか表示します。

また、外部研修や既存研修との関連を表示するなどして、完成版となります。ただし、常に改良を重ねていく必要があると考えております。

(2) プログラム開発の開発手順書はありますか。

→A；現在実施している「SPOD-SDプログラム開発セミナー」（合宿セミナー）は、プログラム開発の手法を学ぶことも一つの目的としています。各大学が担当するプログラム開発には、愛媛大学から秦先生や研究員が各コア校に適宜出向いて集中的に開発について指導・助言していただく予定です。なお、愛媛大学で作成している「大学人、社会人としての基礎力養成プログラム」の開発手順については、順次まとめています。できあがり次第、各加盟校に提示させていただきます。

(3) 「学務系職員養成プログラム」を先行して開発セミナーを行っているのはなぜですか。

→A；学務系職員は、国公立大学・短大・高専が共通するテーマであることと、このセミナーでプログラム開発手法を学ぶことによりSPOD内でより多くの職員の意識の向上を図るため実施しています。また、合宿によるセミナーやその中で行われる懇親会等を通じ、職員間の交流を深めることとしています。

(4) 「次世代リーダー養成プログラム」のみ、「完成させ、実施する」となっている意味はどうしてですか。

→A；文部科学省への申請段階で、「次世代リーダー養成プログラム」については、今年度プログラムを完成させ、研修を実施し、その結果を検証するとしているためです。

(5) 「職員業績記録(スタッフ・ポートフォリオ)」とは何ですか。

→A；大学職員用に開発するものです。人事記録は発令事項や研修実績等を記録していますが、職員業績記録は年度毎の成長記録を作成することで、未来予想まで可能となることです。自身の職歴・業務内容・業績等を記載することで業務の詳細が分かることや地域社会での活動等も記載します。また、これまでの自分、今の自分、これからの自分を記載することで個々人のビジョンをもちゴールを目指すことができることです。

さらに、「職員業績記録（スタッフ・ポートフォリオ）」により学内の人事異動や他大学等との人事交流に利用可能と考えます。最終的には、スタッフ・ポートフォリオ評価も視野に入れています。

3 「経営者・管理者養成プログラム」について

(1) 「経営者」とは

→A；トップマネジメントを想定しています。学長、理事長、理事、副学長レベルを経営者と位置付けています。「経営者」という概念は国立大学法人と私立大学で大きく異なります。また、事務職員については、国立大学法人においては、各大学のプロパーがステップアップして到達するポジションでない場合もあります。しかし、これからは、大学の個性、特色を求められていることもあり、プロパー職員の育成の最終目標とすることも考えられます。このため、地方にある高等教育機関の経営者・管理者に必要な資質等について、プログラム化できると考えています。

(2) 「管理者」とは

→A；愛媛大学なら部長、課室長クラス、いわゆる管理職の職員を指しています。

(3) 「基礎力養成プログラム」及び「専門のプログラム」において「養成」とは何を意味しているのか

→A；それぞれのプログラムには、到達目標として課長クラスのプログラムをレベル3として取り入れる方が分かりやすいので示しています。従って、「経営者・管理者養成プログラム」と重複するものは出てくると思います。

(4) レベル1, 2, 3が想定されているのですか。

→A；想定していません。「経営者・管理者養成プログラム」及び「次世代リーダー養成プログラム」についてはレベルを設けず、それぞれを1つのプログラムと考え、この2つのプログラムをあわせてリーダー養成課程と想定します。

(5)「次世代リーダー養成プログラム」との関係はどうなっているのですか。

→A；若手職員から係長になるまでの育成を主眼とし、将来的に次のリーダーとなるものの養成プログラムの開発ということです。

(6)「経営者・管理者養成プログラム」を開発するにあたって、具体的に教えてください。

① どのような手順で実施するのですか。

→A；他のプログラム開発手法と同じですが、これについては、別途、参考となる資料を用意する予定です。

② 各手順にどのくらいの労力を要するのですか。

→A；次の作業を想定しています。

I 各プログラム開発に合宿セミナーの手法で必要な能力の洗い出し作業。

II プログラム名の選定、各能力を知識・技能・態度、レベル1～3に分類作業。

III 単位数、必修・選択、到達目標の決定作業

(愛媛大学と協働して2泊3日程度で集中的に作業する予定です。)

③ どの時期に、どの部分に、どのくらいの愛媛大学の支援を受けられるのですか。

→A；上述以外でも十分支援可能です。夏期休業期間中に集中的に計画し実施していきます。

④ その開発に関する経費はどうなるのですか。

→A；その都度相談させていただきます。

⑤ 大学職員サポートセンターとの連携はどのようにするのか。

→A；大学職員サポートセンターが開発しているプログラムとリンクしたものをSPODの中で開発したいと考えています。これについては、事前の了承を得ています。

(7) 各大学のSD担当者がネットワークを構築し、それぞれのプログラム開発を協力し合うことによって、よりよいものが作れないでしょうか。(各プログラムが自主的に作成でき、標準化ができるのでは)

→A；合宿セミナーでは毎回同じ講師が担当しており、その講師を中心にネットワークを構築することで可能と考えます。集中的に各県のコア校が中心となって開発するものです。ネットワークについては、SPOD事業がネットワークです。

なお、今後独自のプログラムを開発する場合、このネットワークを利用して開発することができると考えております。

4 開発プログラムの活用について

(1) GPとしての期間が終了したときは、プログラム開発は終了して利用段階に入っているのですか。

→A；そのとおりです。実証を通して段階的に完成させ、利用していく予定です。

(2) どのような活用方法になるのですか。

→A；SPOD内で毎年「研修プログラムガイド」を作成し、SPOD内で相互に研修を利用することとなります。(今年度は「研修プログラムガイド2009」が作成されています。)

(3) SDの最終目標は、事務職員の人材育成・自律的な能力開発であるが、そこにどう結びつくのか具体的に説明してください。

→A ; 沢山の職員が係わってプログラムを開発し作成するという、そのワークそのものがSDと考えます。また、四国の国公立大学・短大・高専の職員自身が作成した研修プログラムにより研修を実施することは、それぞれのニーズにあった研修プログラムであり、職員の能力開発に繋がると考えます。

(4) GPの期間が終了した後、この事業はどのようなようになっていくのですか。

→A ; 本取組は、長期的視野で実施するもので、「高等教育専門職型大学院」の共同設置を目指しています。設備整備は財政支援中に終える予定で、組織を維持運営するための必要経費は加盟校の応分の負担を考えています。

(5) GPが終了後の四国地区における体制はどのようなものになるのですか。

各コア校の業務分担は

→A ; 今後、ネットワークコア運営協議会で決めることとなります。

5 FDとSDの関係

(1) FDとSDと一緒に開発するメリットは何ですか。

→A ; 研究者としての学術的理論に基づいた能力開発が必要なため、教職協働で開発することがメリットです。

(2) どの部分と一緒に、どの部分を別々に行うと考えているのですか。

→A ; 今のところ区別を明確にすることは考えていません。

(3) GP終了後のFDとSDの関係はどのようなものになるのですか。

→A ; 本取組は、長期的視野で実施するもので、「高等教育専門職型大学院」の共同設置を目指しています。従って、教職協働で取り組んでいくこととなります。

6 その他

(1) SPODとは何の略称ですか。

→A ; ネットワークの呼称です。

Shikoku Professional Organizational Development Network in Higher Education
四国における高等教育プロ育成開発ネットワーク

= SPOD これは設立総会で、愛媛大学から提示させていただきました。

(2) 昨年度は、どのような取り組みを実施したのですか

→A ; 昨年度は、「平成20年度活動報告書」発行していますので、ご覧ください。

また、SPODのホームページ <http://www.spod.ehime-u.ac.jp/> には、いろいろな情報が掲載されています。是非ご覧ください。

(3) プログラム開発セミナーはどのような形式で行われていますか

→参加者によるグループワークで、必要な能力の洗い出しを行い、それをまとめる方法を取っています。この手法は、いろいろなプログラム作成に応用できるものです。

(4) SPOD の取り組みに関心があります。問い合わせはどこにすればいいですか。

→ SPOD に関しては愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(Tel089-927-8922)まで連絡ください。

(5)SPOD の教職員に講演を依頼したいと思いますが、どうすればいいのでしょうか。

→これから、SPOD ホームページで講師となれる教職員を紹介していきます。詳しくは愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(Tel089-927-8922)まで連絡ください。

(6)SPOD フォーラムが開催されると聞きましたが、詳細を教えてください。

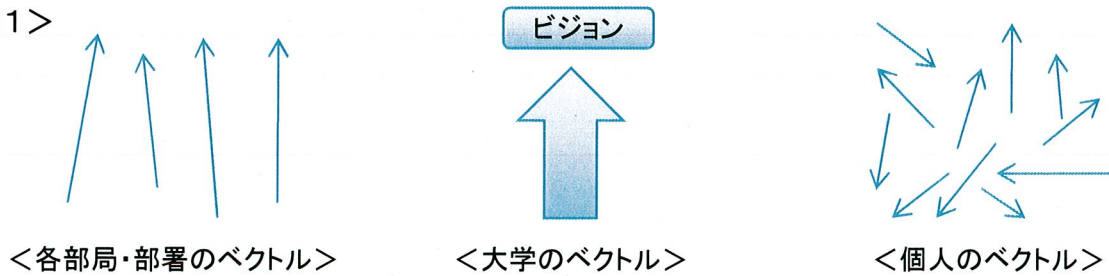
→今年の平成 21 年 9 月に開催します。主な対象者は四国内の国公立大学・短大、高等専門学校に勤務する教職員です。詳しくは教育・学生支援機構教育企画室(Tel089-927-8922)まで連絡ください。

SPOD-SDプログラムの導入効果について(案)

<現状>

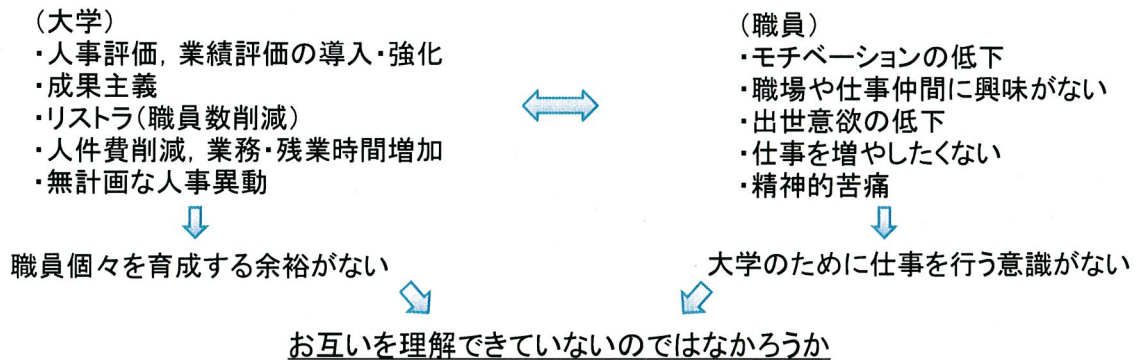
大学等・各部署・各部署が向かおうとしているビジョンやベクトルと職員個々の職員としてのビジョンやベクトルが一致していないのではないのでしょうか。

<図1>



大学等と職員個々のキャリア・パス イメージなどの間に生じる「ギャップ」が大学等や経営者・管理者および職員に不満やストレスを発生させていると考えられます。

<ベクトルの不一致により生じる「ギャップ」の例>



<SPOD-SDプログラム>

SPOD-SDプログラムは大きな3つの柱で構成されています。

1. SPOD-SD大学(職員研修プログラム)
2. スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)
3. 職員キャリア・アップ サポート

1. SPOD-SD大学(職員研修プログラム)
職員個々の能力(職員として必要な知識、技能、態度・姿勢)を開発します。

2. スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)
職員個々のキャリア形成に向けて、職員業績記録を作成することにより、職員としての自己認識とベクトルを明確にします。

3. 職員キャリア・アップ サポート
スタッフ・ポートフォリオで掲げた職員としてのビジョンやゴール達成に向けてメンタリングを導入することにより、大学等と職員個人のベクトルを近づけます。また、SPOD加盟校間での職員交流のサポートも行います。

職員の能力向上や職員としてのビジョンを明確にし、サポートすることで大学等と職員が共に輝く

SPOD-SDプログラムが想定する職員のキャリアパス・イメージ(案)

資料5-3

～大学と職員が共に輝くために～

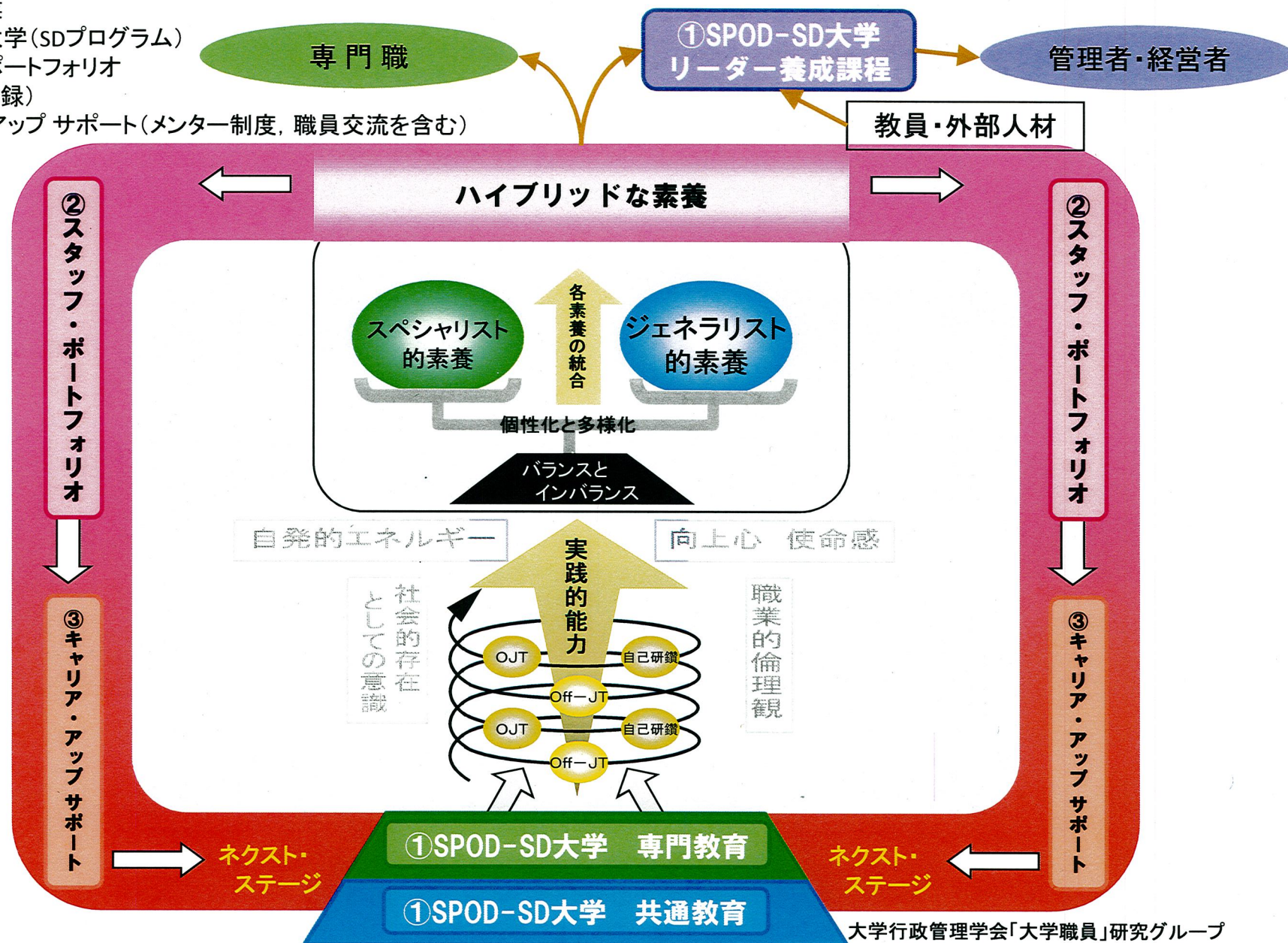
SPOD-SD事業

①SPOD-SD大学(SDプログラム)

②スタッフ・ポートフォリオ

(職員業績記録)

③キャリア・アップサポート(メンター制度, 職員交流を含む)



大学行政管理学会「大学職員」研究グループ
秦、山本、各務(2007)資料をSPOD用に修正

SPOD-SD大学(SDプログラム)構想図

1. 専門職養成課程

大学職員の専門性を育成するSDプログラムを学士，修士，博士課程として位置づける。そのため，各専門領域を学部や研究科として位置づける。

	専門教育 (専門職養成プログラム)	共通教育 (基礎力養成プログラム)
学士課程 レベル 1 専門〇〇単位 共通〇〇単位	医学部(研究科) . . . 情報処理学部(研究科) 国際交流学部(研究科) 図書学部(研究科) 施設学部(研究科) 財務学部(研究科) 総務学部(研究科) 研究協力学部(研究科) 学務学部(研究科)	大学人・社会人としての 基礎力を養成するた めの共通研修科目
修士課程(専門) レベル 2 専門〇〇単位 共通〇〇単位		
博士課程(専門) レベル 3 専門〇〇単位 共通〇〇単位		

2. リーダー養成課程

大学のミドルリーダー，トップリーダーに必要な知識・技術・姿勢を育成するSDプログラムを修士，博士課程として位置づける。なお，修士課程(リーダー)を受講する際は，修士課程(専門)以上のプログラムを受講中または修了していることを原則とする。さらに，博士課程(リーダー)を受講する際には，博士課程(専門)を受講中または修了していることを原則とする。

修士課程(リーダー) 〇〇単位	次世代リーダー養成プログラム
博士課程(リーダー) 〇〇単位	管理者・経営者養成プログラム